

令和4年度

萌える天北オロロンルート 活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 代表 西 大志	報告年月日: 2023/3/31
---------------------	--------------	------------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	R4					総括
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号	
景観	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	風景との出会いの演出	フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト作品展示)	-	-	-		景観形成についての総括 ・道北ルートで連携フォトコンテストは今年度で9回目となり、安定的に事業が実施できている。課題として、フォトコン作品の活用や展示方法、資金調達などがある。 ・秀逸な道選定候補区間における海岸清掃やエゾカンゾウプロジェクトの復活などを過年度の取組をリバイスの上実施。また、道路協力団体の活動内容も登録変更することで、自動販売機の収益を得られる仕組みも整備した。 ・秀逸な道の選定区間への申請に向けた検討を引き続き進める。
			送り火フォトコンテストの開催	-	-	-		
			シーニックバイウェイ道北ルート連携フォトコンテスト	シーニックバイウェイ道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会	令和4年6月1日～9月30日(応募期間)	23人(主催者側)/応募者数39人・応募作品数214作品	A - 4	
			景観診断プロジェクト	-	-	-		
			菜種・ヒマワリクリーンエネルギープロジェクト	-	-	-		
			るもい地域の観光・まちづくりの未来を語る勉強会(6.18石田先生PJ)	-	-	-		
			日本道路会議(ルート副代表がパネリストとして参加)	-	-	-		
			風景街道テーマ別意見交換会(風景街道の意見交換会に参加)	-	-	-		
			シーニックカフェの登録・カフェ連携	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	通年	8人	A - 3	
			船場公園での除草・物販・啓発活動(道路協力団体)	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	活動内容見直しのため未実施	-		
		秀逸な道清掃プロジェクト→道路景観プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	令和4年6月7日	12人	A - 1		
		花とみどりの景観づくり	エゾカンゾウ植栽プロジェクト→道路景観プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	令和4年7月14日被覆作業 令和4年9月16日種播き作業	15人	A - 2	
			菜種・ヒマワリクリーンエネルギープロジェクト	-	-	-		
			萌天の森プロジェクト	-	-	-		
愛着と誇りの醸成	景観診断プロジェクト	-	-	-				

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 代表 西 大志	報告年月日: 2023/3/31
---------------------	--------------	------------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	R4					総括
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号	
食	自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	地場製品の魅力づけ	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	-	-	-		食についての総括 ・今年度は、食をテーマとした活動は実施しなかった。 ・今後は、活動のテーマ自体も含めて、方向性を検討していく予定である。
			萌天焼の開発プロジェクト	-	-	-		
		新メニューの企画	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	-	-	-		
			萌天焼の開発プロジェクト	-	-	-		
		地域ブランドの構築	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	-	-	-		
			ワークショップの開催	-	-	-		
			チカホでのシーニックPRイベントにて地域特産物の販売実施	-	-	-		
			萌天焼の開発プロジェクト	-	-	-		
			情報受発信プロジェクト⑤ ～萌か留た～	-	-	-		

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 代表 西 大志	報告年月日: 2023/3/31
---------------------	--------------	------------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	R4					総括
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号	
環境保全	地球に優しい「くらしぶり」のお手本づくりと促進	クリーンエネルギーのイメージづくり	菜種・ヒマワリ クリーンエネルギープロジェクト	-	-	-		環境保全についての総括 ・今年度もゴミ対策として、海岸・道路清掃活動を実施。また、エゾカンゾウプロジェクトの復活などを過年度の取組もリバイスの上実施。また、道路協力団体の活動内容も登録変更することで、自動販売機の収益を得られる仕組みも整備した。
			フォーラム開催プロジェクト	-	-	-		
			風景街道サミットinあさま (ルート代表がパネルディスカッションに参加)	-	-	-		
			萌天の森プロジェクト	-	-	-		
		ゴミ対策の取り組み	船場公園での除草・物販・啓発活動(道路協力団体)	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	活動内容見直しのため未実施	-		
			秀逸な道清掃プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	令和4年6月7日	12人	A - 1	
		身近な生態系の保全・復元	エゾカンゾウ植栽プロジェクト→道路景観プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	令和4年7月14日 被覆作業 令和4年9月16日 種播き作業	15人	A - 2	
			萌天の森プロジェクト	-	-	-		
			天塩イトウシンポジウム(共催)	-	-	-		
			天塩川でつなぐ・ひろがるプロジェクト	-	-	-		

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 代表 西 大志	報告年月日: 2023/3/31
---------------------	--------------	------------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	R4					総括	
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号		
レクリエーション	暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり	ロングドライブのサポート	景観診断プロジェクト	-	-	-		レクリエーションについての総括 ・レクリエーションの活動については、シーニックカフェとの連携による情報発信の展開に取り組むとともに、オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクトについては、応援カーの出発式・苫前商業高校との連携等活動内容が充実してきた。今後も継続的で発展性の活動を展開していく。 ・古丹別地区流雪溝もコロナ禍を経て共助除雪を再開。インフラツーリズムとの接合を今後再検討していく。	
			フォーラム開催プロジェクト	-	-	-			
			風景街道サミットinあさま(ルート代表がパネルディスカッションに参加)	-	-	-			
			萌天の森プロジェクト	-	-	-			
			情報受発信プロジェクト⑤ ～萌か留た～	-	-	-			
			シーニックカフェの登録・カフェ連携	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	通年	8人	A - 3		
			サイクリングイベントの周知協力活動	-	-	-			
		身近なアウトドアの紹介	オロロンラインサイクリスト応援プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	通年	-	A - 5		
			各種カルチャー活動による交流	フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト作品展示)	-	-	-		
				流雪溝雪はねボランティアツアーin苫前	苫前町まちづくり企画	令和5年2月18日 令和5年2月19日	20人		A - ##
				エゾカンゾウ植栽プロジェクト→道路景観プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	令和4年7月14日 被覆作業 令和4年9月16日	15人		A - 2
				菜種・ヒマワリクリーンエネルギープロジェクト	-	-	-		
				よりみちの駅イベントでのシーニックPRイベント	-	-	-		
				ダウン・ザ・テッシ&石田先生招聘プロジェクト	-	-	-		
エコ・ツーリズムセミナー	-	-		-					

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 代表 西 大志	報告年月日: 2023/3/31
---------------------	--------------	------------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	R4					総括	
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号		
歴史・文化	先代の暮らしぶりと新たな価値観を将来に伝え楽しむ	歴史資源の保全と活用	ワークショップの開催	-	-	-		歴史・文化についての総括 ・歴史・文化に関する活動としては、フォトコン作品の展示を実施した。留萌地域での暮らしぶりについて、写真を通して伝えることができたが、今後さらなる効果的な伝え方を検討していく必要がある。 ・歴史・文化を主眼とした取組自体は実施していないが、今後、他の活動の拡大などを通して実施できればと考えている。	
			情報受発信プロジェクト⑤ ～萌か留た～	-	-	-			
		次世代への歴史伝承	-	-	-	-			
		独自の生活文化の発見	フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト作品展示)	-	-	-	-		
			送り火フォトコンテストの開催	-	-	-	-		
		シーニックバイウェイ道北ルート連携フォトコンテスト	シーニックバイウェイ道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会	令和4年6月1日～9月30日(応募期間)	23人(主催者側)/応募者数39人・応募作品数214作品	A - 4			
全体	上記内容全体の方針に関わる活動	情報受発信プロジェクト① ～冊子:Eezo～	-	-	-	-		地域づくりについての総括 ・道をきっかけとした活動の展開など、ルート運営活動計画の見直しを着手することで、今後の活動内容の方向性を検討していく。	
		情報受発信プロジェクト② ～オロロンマップの活用～ オロロンさんぼみち	-	-	-	-			
		情報受発信プロジェクト③ ～道の駅・シーニックカフェ スタンプラリー～	-	-	-	-			
		情報受発信プロジェクト④ ～オロロンドライブ情報～	-	-	-	-			
		情報受発信プロジェクト⑤ ～萌か留た～	-	-	-	-			
		情報受発信プロジェクト⑥ ～留萌管内観光アンケート～	-	-	-	-			
		ルートFacebookの運用	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	通年	-				
その他		道の駅るもい等の活性化に向けた有識者視察							
		フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト作品展示)	-	-	-	-			
		風景街道大学オンラインセミナーでの登壇	-	-	-	-			

萌える天北オロロンルート

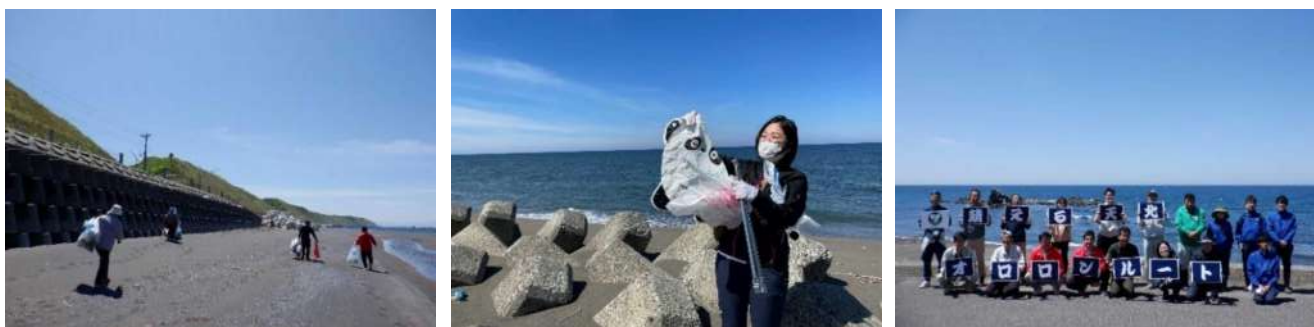
Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：道路景観プロジェクト（海岸清掃）

【概要】 ルート内の秀逸な道として、平成30年度から清掃活動に取り組んでいる。令和3年度からの秀逸な道の本格運用に伴い、当該区間が選定候補区間に登録されたことから、清掃活動（苫前町クリーンアップ日本海事業とコラボ）を行うとともに、ビーチコーミングの実践と勉強会を行った。

【開催日】 令和4年6月7日 9:00～11:30

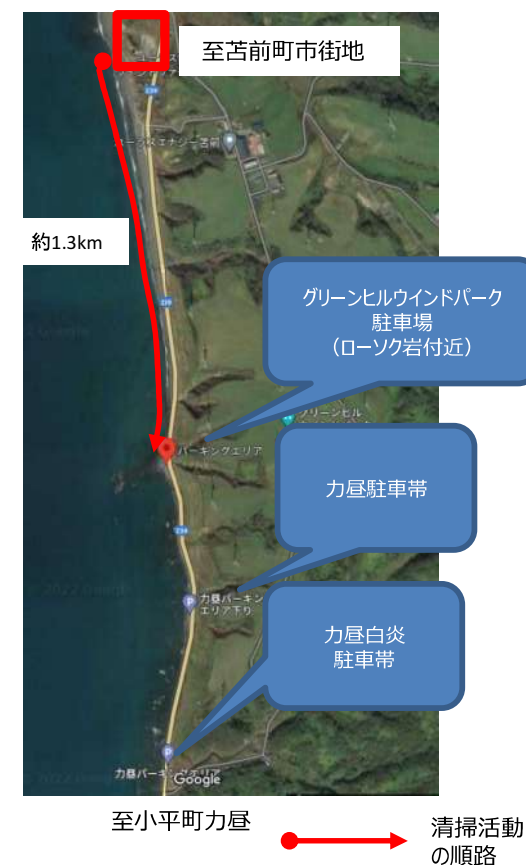
【開催場所】 一般国道232号 上平



当日はビーチコーミングの実演とコカ社（SBW包括連携企業）が参加してくださいました。

《清掃活動後のビーチコーミング勉強会＆意見交換会》

- 秀逸な道と掛け合わせて清掃活動を実施し、その成果を全道で発表してみてもどうか。
- 地道に清掃活動を進めていき、次の活動や調査に活かしていきたい。既存の取組を、自治体ごとにカレンダーに起こしてみることで、どこで清掃活動を繋げられるのか見えてくるかもしれない。
- 単独よりも大勢で活動した方が、より楽しさも課題解決の確立も増すと思う。
- 今回、清掃活動後に勉強会の場を設けたことで、楽しいで終わらず次に繋がられていると感じた。



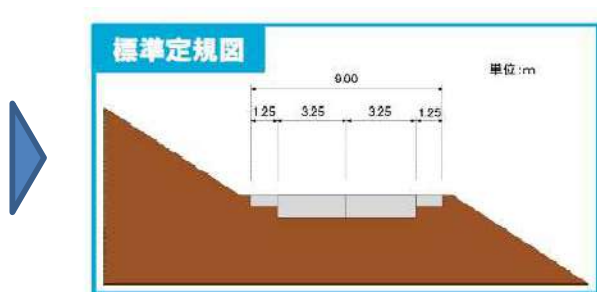
萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：道路景観プロジェクト（オロロンライン・エゾカンゾウプロジェクト）

【概要】 2020年度に事業化された「一般国道232号 小平防災事業」によって、小平町大楸の法面にて自生するエゾカンゾウが今年度夏期に消失する。そのため、エゾカンゾウの種を採取し今後別所に定植させることで、オロロンラインの道路景観を保全・復元を目指すプロジェクトを緊急的に立ち上げた。

【開催日】 令和4年7月14日 被覆作業 9月16日 種播き作業



小平防災事業の区間と事業イメージ



エゾカンゾウ



工事前のエゾカンゾウ

7月14日被覆作業

9月16日種播き作業

現在育苗中



法面での作業の様子



作業後の記念撮影



種播き作業



萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進

【概要】ルート内の景観のすばらしい場所や飲食店を、シーニックバイウェイ推進協議会で統一的に広報活動を実施している「シーニックカフェ」として登録し、ルート内の景観のよい場所や施設を統一的にPRすることで、ブランド化に繋げることを目的として実施している。現在、ルート内に9カ所のカフェが登録されている。

【登録数】シーニックカフェ9カ所（令和4年現在）



<登録先カフェ> ※赤字2箇所 R2 再登録

- ・喫茶ポルク（増毛町）
- ・千望台レストハウス
⇒ハートランドカフェ（留萌市）
- ・ふなばカフェ（るしんふれ愛パーク内：留萌市）
- ・からくれ（小平町）
- ・ラウンジWildmill（道の駅風Wとままえ内：苫小牧市）
- ・TIARA（羽幌町）
- ・レストラン北極星（初山別村）
- ・道の駅富士見レストランとんがりかん
⇒道の駅えんべつ富士見（遠別町）
- ・てしお温泉夕映レストラン（天塩町）



令和3年10月1日より
全道的なPRサイトが開設



令和4年度より
自転車御守頒布開始



萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：道北ルート連携フォトコンテストの開催

【概要】大雪・富良野ルート、宗谷シーニックバイウェイ、天塩川シーニックバイウェイの道北4ルートによる、ルートを跨いだフォトコンテストを実施した。今年度で8年目の開催で、過年度の受賞作品については、管内巡回パネル展示を実施している。

【応募期間】令和4年6月1日～9月30日

【主催】シーニックバイウェイ北海道 道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会

7月中旬～8/3	8/3～	8/31～	9/30～	11/1～	12/1～1/11	
道の駅るもい	道の駅 おびら練番屋	道の駅 えんべつ富士見	しょさんべつ温泉 ホテル岬の湯	道の駅 風Wとままえ	道の駅 ほっと♡はぼろ	道の駅 てしお
						

令和4年受賞作品



グランプリ賞（天塩川）
『天空の波濤』



萌える天北オロロンルート賞
『爽快サイクリング』



入選
『春の旅立ち』



入選
『シーニックバイウェイ』

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト（全体像）

【概要】令和元年度からの継続事業として、今年度は「オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト（浸透期）」と位置づけ、過去2カ年のサイクリスト受入環境整備の成果を拡大成長させることと同時に、管内サイクリストや地元高等学校などの他団体との連携を強化。引き続きに本取組の成果を管内に浸透させつつ、今後の管内のサイクルツーリズムの振興の足掛かりを築くことを目的とする。

	取組メニュー	令和3年度までの実績	令和4年度取組内容(案)
継続	手ぶらサイクルの検討 (地元バス事業者との協議)	「手ぶらサイクリング」の実現に向け、地元バス事業者との打合せ (コロナ禍のため協議中断)	地元バス事業者との打合せの再開
	サイクリスト・応援カーの 試行実施	(令和元年・令和2年)管内道路維持業者7社の道路パトロールカーに、自転車用空気入れと工具搭載 (令和3年)天塩川河川パトロールカーにも実施拡大/「サイクリスト・応援カー出発式」開催	取組のモチベーションアップのために「サイクリスト・応援カー出発式」を継続開催し、サイクリストとパトロールカー運転手とのコミュニケーションの円滑化と運転手のスキルアップ
	オロロンライン・サイクル ステーションの設置・拡大	(令和元年・令和2年)管内3箇所では自家製サイクルラックをワークショップ型式にて作成。管内道の駅・シーニックカフェ等へ配布(配布先を「オロロンライン・サイクルステーション」として指定) (令和3年)苫前商業高校生たちと地域協働でサイクルラックの作成、苫前町内及び管内除雪ステーションに設置	「オロロンライン・サイクルステーション」の設置から保守へのステップアップと「オロロンライン・サイクルステーション」のPR強化
	バイクホテルの設置・拡大	(令和2年)天塩町内宿泊施設にて、室内サイクルラックを設置	留萌中部・南部に1箇所ずつ設置する(バイクホテルの拡大)
	管内サイクリストの巻き込み 管内の新しいサイクリングの楽しみ方の提案	(令和3年)苫前商業高校生たちと「自転車ツーリング事業」の実施	継続的な連携をしつつ、高校側の事業の自走化までを支援するとともに、ツーリングを中心としながらも留萌地域を知ってもらう仕掛けを実装する。
新規	オロロンライン聖地化プロジェクト	-	「サイクリストの憧れの地」としてブランディング向上に向けた取組へとこの事業をステップアップさせる地固めを行う。

済

済

済

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト
(サイクリスト・応援カー出発式)

- 【概要】管内の国道等の道路パトロールカーに空気入れや自転車用工具セットを搭載する取組みを令和2年度から試行的に実施しており、取組の気運を高めるため、『「サイクリスト・応援カー」出発式』を開催する。
- 【開催日】令和4年5月12日（木）
- 【開催場所】留萌開発建設部 羽幌道路事務所
- 【主催】萌える天北オロロンルート
- 【協力】維持ネットワーク協議会留萌支部（管内国道維持業者7社）
かわたびほっかいどう天塩川 河川巡視1社



出発式の様子

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

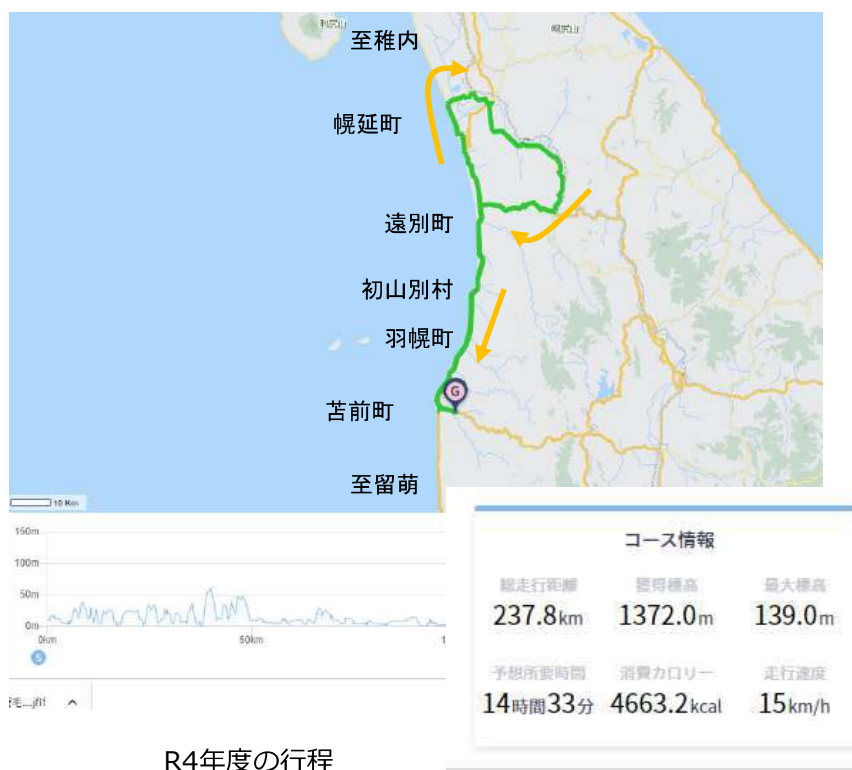
活動名：オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト
(苫前商業高校ツーリング事業への協力)

【概要】 苫前商業高校と苫前町教育委員会による自転車ツーリング事業とタイアップすることで、苫前商業高校の生徒数増加に向けたPRをともに、管内他高への展開に向けた事例づくりを行う。具体的には、自転車ツーリング事業の企画段階から安全な自転車の乗り方の助言をするとともに、管内の隠れた魅力を高校生たちに伝えながら、2泊3日の自転車ツーリング事業を企画。

【開催日】 令和4年7月26日(火)～28(木)

【主催】 苫前商業高校・苫前町教育委員会 【協力】 萌える天北オロロンルート

【参加者】 苫前商業高校(高校生9名、教員等4名)・苫前町教育委員会(職員2名)・萌える天北オロロンルート(6名)



R4年度の行程



R4年度の様子

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト
(メンテナンス講習会の開催)

【概要】 留萌管内でスポーツバイクをメンテナンスできる自転車店は数少なく、今後管内の事業者や観光団体などがサイクルツーリズムを振興する上で、応急的なメンテナンススキルの習得は、今後より一層必要となることから応急的なメンテナンススキルを習得する講習会を開催。

【開催日】 令和4年10月17日(月) 10:00~12:00

【開催場所】 てしお温泉夕映

【主催】 萌える天北オロロンルート

【共催】 (一社)シーニックバイウェイ支援センター

【協力】 てしお温泉夕映

🚲 オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト

プロメカニクが教える！ メンテナンス講座

参加費 無料

留萌管内でスポーツバイクをメンテナンスできる自転車店は数少なく、今後管内の事業者や観光団体などがサイクルツーリズムを振興する上で、応急的なメンテナンススキルの習得は、今後より一層必要となるスキルとなるでしょう。

そこで、これまで数多くの自転車技士を育ててきた服部氏をお招きし、応急的なメンテナンススキルを習得する講習会を開催します。

レンタサイクルの貸出事業やサイクルガイド事業の関係者やサイクルツーリズムの振興に熱心な方、ホビーライダーの方のご参加も歓迎します！

日時 令和4年10月17日(月) 10時~12時(9:30受付)
場所 てしお温泉夕映 1階会議室(天塩郡天塩町サラキ5807-4)

対象 サイクルツーリズムや自転車のメンテナンスに関心のある団体および個人(定員15名)

申込方法 メールもしくはFAXにて受け付けます。下記連絡先まで、①お名前、②所属・役職等、③電話番号、④連絡用FAX*1をお知らせください。*1(締め切り10月7日(金))

連絡先 (一社)シーニックバイウェイ支援センター(小西)
TEL: 011-708-0429 / FAX: 011-708-0430 / E-mail: konishi@decent.or.jp

主催 萌える天北オロロンルート運営代表者会議
共催 (一社)シーニックバイウェイ支援センター
協力 てしお温泉夕映

講義内容(予定)

- ① 自転車の仕組みの説明(クロス・ロード・電動)
- ② チューブ交換(実技有り)
- ③ ブレーキ調整(実技有り)
- ④ サドル調整(実技有り)等

主催 服部 好泰氏



参加申込書 10/7(金)まで
10月17日(月)の「プロメカニクが教える！メンテナンス講座」に参加します。

お名前	
所属・役職等	
TEL	
E-mail	

案内チラシ

受講証明書

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト
(オロロンライン聖地化プロジェクトの検討)

【目的】過年度までの受入環境整備を中心としていた取組を基盤に、管内の景観の良い視点を「聖地」として選定した上、これらの「聖地」の視点場としての品質向上に向けた取組（「聖地」の在り方や条件の検討、「聖地」の選定、視点場としての磨き上げの方策検討）やブランディング向上（サイクリストミーティングイベントの実施、自転車関連メーカーとのタイアップ等）に向けた取組を行う。
(参考とする取組：草千里プロジェクト)

	調査先	調査結果
ヒアリング調査	サイクルスポーツ オルトリーブ (輸入代理店:ピー アールインターナシ ョナル)	<ul style="list-style-type: none"> 北海道の自転車観光のポテンシャルはやはり強固 ガイドライドではなく、ミーティングイベントという可能性は未知。コロナ禍を経て、サイクルイベントも見直しが図られる。そこに上手く乗れるかどうか。 アットホームなイベントづくりが吉。 道内の自転車ショップとの連携を強化することが望ましい。
現地調査	大分 熊本 釧路	<ul style="list-style-type: none"> サイクルツーリズムは、バイウェイの活用方法として取り組んでいる。 九州と北海道は食べ物も気候も違うので、食材を通じた連携が良い。 拠点になる取組のひとつとして、道の駅阿蘇ではトイレの改修によって空地となった元トイレスペースをサイクリスト用の着替えスペースとして無料提供した。 阿蘇の牧野(ぼくや)の野焼きによって生じる延焼防止帯(輪地切り)をMTBで走るサイクルツアーが人気



オロロンラインを象徴する夕陽を堪能する
「オロロンライン・サンセット・ミーティング (OSM)」



日程 (案) : 令和5年8月19日
 場所 (案) : オロロンラインを象徴する場所
 内容 (案) : 事前登録者は各自のペース・手段で日没までに集合
 留萌の食や景観を堪能しながら思い出を共有できる場づくり (例: キャンプ場、キッチンカー、テントサウナ等)
 参加者たちの写真集を作ることで思い出を遺す (参考: 草千里プロジェクト)

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：インフラツーリズム・プロジェクト

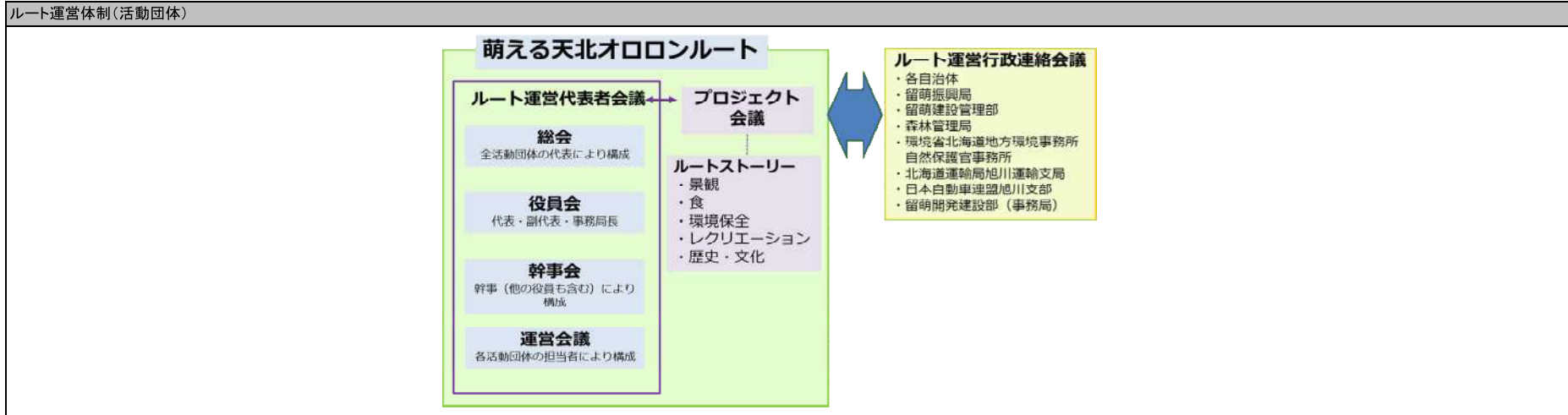
- 【目的】 過疎化・高齢化が進む古丹別地区流雪溝における運用の見直しが進められている。地域共助による投雪作業の今後の在り方を検討するため、試行的に地域共助による投雪作業を実施した。
- 【開催日】 令和5年2月18日（土）15：30～16：30 流雪溝の投雪口掘り起こし作業
令和5年2月19日（日）8：00～10：00 流雪溝の投雪作業



3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 萌える天北オロロンルート 代表 西 大志	報告年月日: 2023/3/31
---------------------	---------------------------	------------------

活動団体 増毛町観光協会、豊かな森川海人をつくる増毛実行委員会、一般社団法人留萌青年会議所、NPO法人留萌観光協会、小平町観光協会連合会、小平町商工会、NPO法人天塩川を清流にする会、萌天サポーターズクラブ、苫前町まちづくり企画、桜並木を作る会、一般社団法人マッチワークス、天塩町観光協会、てしお温泉夕映 全13団体



基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
ルート運営代表者会議(総会)			● 6/7										このほか、事務局打合せを適宜実施。
役員会	● 4/8		● 6/2		● 8/29				● 11/17				
幹事会	● 4/14					● 9/16			● 12/5				
運営会議	● 4/14					● 9/16			● 12/23				
その他会議等						● 9/1 代表者会議		● 11/17 ブロック会議 (旭川)	● 12/22 推進協議会	● 2/22 運営会議	● 3/13授与式 ● 3/17 運営会議		

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 留萌開発建設部	報告年月日: 2023/3/31
---------------------	--------------	------------------

基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
行政連絡会議の実施													会議体としての実施はせず、各自治体を個別訪問し、制度や取り組みを説明。

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 萌える天北オロロンルート		報告者: 留萌開発建設部	報告年月: 2023/3/31				
ルート(エリア) 運営活動計画方針	令和3年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No	
景観	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	「道北ルート連携フォトコンテスト」の作品巡回パネル展による広報活動 主催:シーニックバイウェイ道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会	令和4年7月～令和5年3月 (通算展示期間)	留萌開発建設部、留萌市、小平町、羽幌町、遠別町、初山別村、天塩町	「道北ルート連携フォトコンテスト」応募作品の巡回パネル展を道の駅るもい(留萌市)、道の駅おびら鯨番屋(小平町)、道の駅サンセットプラザはぼろ(羽幌町)、道の駅ロマン街道☆しよさんべつ(初山別村)、道の駅えんべつ富士見(遠別町)、道の駅てしお(天塩町)にて開催し、広報活動に協力した。 今後も、継続してルートの活動を広く周知することが必要。	地域景観の紹介や地域景観づくりの継続した取り組みが定着している。 今後も、効果的なPRや、取り組みを地域全体に展開できる体制作りを進めたい。	A-4
		「道北ルート連携フォトコンテスト」の開催 主催:シーニックバイウェイ道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会	令和4年6月1日～9月30日 (応募期間)	留萌開発建設部	シーニックバイウェイ道北ルート連携フォトコンテスト2022の開催にあたり、会議・審査会への参加及びフォトコンテストの活動周知に協力した。引き続き、作品の活用やフォトコンテスト開催に関する周知が必要。		A-4
環境保全	地球に優しい「くらしぶり」のお手本づくりと促進	道路景観プロジェクトでの清掃活動	令和4年6月7日	留萌開発建設部	秀逸な道選定候補区間での海岸清掃に参加した。選定区間申請に向けた継続的な支援が必要。	清掃活動の実施を通して、沿道の美化への認識を深めることができた。今後も継続的、発展的に実施できるように、協力したい。	A-1
		道路景観プロジェクトでのエゾカンゾウ植栽活動	令和4年7月14日 令和4年9月16日	留萌開発建設部	2020年度に事業化された「一般国道232号 小平防災事業」によって消失するエゾカンゾウの種を保存し、育苗のもと植栽することで、オロロンラインの道路景観を保全・復元を目指すプロジェクトの立上げ支援を行うとともに、種取り、種播き作業に参加し、今後のプロジェクトの進め方について助言をした。		A-2
		船場公園での除草・物販・啓発活動	活動内容見直しのため未実施	留萌開発建設部	道路協力団体として、除草・物販・啓発活動を実施する予定であったが活動内容見直しのため未実施。道路協力団体活動内容を再登録する支援を行い、自動販売機による収益確保など基盤整備を中心に支援を行った。		
レクリエーション	暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり	シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進	通年	留萌開発建設部	活動を通して、ルート全体の魅力向上につなげるための仕組みづくりと意識共有が課題。9箇所のカフェには「オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト」で製作したサイクルラックを設置していることから、ルートによる維持管理に関する後方支援が今後必要。	シーニックカフェとの連携を通して、地域資源の磨き上げやより道スポットを紹介し、滞在型観光を後押しするとともに、セミナーの開催等を通して、地域内の人材育成も強化し、交流人口の拡大、観光振興を深めたい。	A-3
		オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト	通年	留萌開発建設部	ライト層を含めた来訪サイクリスト層の拡大と来訪者数の増加を目的としたサイクリング受入環境の向上事業について助言等を行った。また、当該プロジェクトや管内のサイクルツーリズムの取組との連携の中で、「オロロンライン・サイクルルート」の申請支援を行った。	今後もサイクリスト受入環境向上に向け道路管理者として協力できることは協力する。	A-5～A-9
		インフラツーリズム・プロジェクト	令和4年11月1日 令和5年2月19日	留萌開発建設部	過疎化・高齢化が進む古丹別地区流雪溝における運用の見直しが進められていることから、地域共助による投雪作業の今後の在り方を検討するため、北空知の流雪溝供用地区へのヒアリング調査や、ハンドガイド型小形除雪機の地区への貸与とともに、地域共助による投雪作業に参加した。	流雪溝利用活性による地域の暮らしの維持に協力する。	A-10
全体	景観、食、環境保全、レクリエーション、歴史・文化全体の方針に関わる活動	萌える天北オロロンルートFacebookページのリンク	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	ルートの認知度向上を目的として、ルートのFacebookページと留萌開発建設部及び各自治体のホームページをリンクして連携した広報活動を行った。	まちづくり、地域づくりをテーマとしたルートの様々な活動は、継続した取り組みにより地域内外に浸透している。 今後も、Facebook等のツールを有効に活用し、ルート活動や地域資源のPR活動を進めたい。	